

第1回小平市長期総合計画基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和元年7月25日（木）午前10時から正午
開催場所	小平市役所6階大会議室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・市長 ・委員 17名 伊藤規子委員 加藤順子委員 川口幸子委員 川地保宣委員 栗山丈弘委員 市東和子委員 鈴木庸夫委員 高橋裕子委員 竹田広輝委員 出口みちたか委員 橋本直子委員 古川満久委員 細江卓朗委員 松尾早智子委員 松田肇委員 宮奈彰男委員 矢口誠委員 ・事務局 3名 企画政策部長 企画政策部総合計画担当課長 企画政策部政策課長補佐兼総合計画担当係長 ・傍聴者 4名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 委嘱状交付 2 市長挨拶 3 委員自己紹介 4 会長、副会長の互選 5 諮問 6 審議会の運営について 7 （仮称）小平市第四次長期総合計画策定について 8 委員による意見交換
配布資料	<p>事前送付資料</p> 資料1 小平市長期総合計画基本構想審議会委員名簿 資料2 小平市長期総合計画基本構想審議会条例 資料3 小平市長期総合計画基本構想審議会の会議の公開に関する規則 資料4 小平市長期総合計画基本構想審議会の運営に関する取り決め 資料5 （仮称）小平市第四次長期総合計画策定の基本方針について 資料6 （仮称）小平市第四次長期総合計画策定の基本方針（概要） 資料7 （仮称）小平市第四次長期総合計画の策定体制 資料8 （仮称）小平市第四次長期総合計画策定に係る全体スケジュールの概要 資料9 （仮称）小平市第四次長期総合計画基本構想審議会スケジュール（案） <p>当日配付資料</p> 小平市長期総合計画策定のための市民アンケート調査 報告書 小平市第三次長期総合計画 （仮称）小平市第四次長期総合計画策定状況 ニュースレター

開会	
事務局	第1回小平市長長期総合計画基本構想審議会を始める。基本構想の諮問までの前段、進行役をさせていただく。
1 委嘱状交付	
2 市長挨拶	
市長	<p>皆様こんにちは。市長の小林でございます。</p> <p>第1回小平市長長期総合計画基本構想審議会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様方におかれましては大変お忙しい中、「小平市長長期総合計画基本構想審議会委員」へのご就任をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>この小平市の長期総合計画につきましては、昭和46年度から第1期目の計画がスタートしました。その後、昭和61年度から第2期目、平成18年度から第3期目の長期総合計画に沿った市政運営に取り組んでまいりまして現在に至っているところでございます。この第3期目の長期総合計画の期間が令和2年度で終了いたしますので、令和3年度から始まる12年間の新たな第四次の長期総合計画を策定するため、委員の皆様方から、さまざまなお知恵をいただければと思っております。</p> <p>さて、小平市におきましては、増加傾向で推移してきた人口も、やがては減少傾向に転じ、近い将来には、市民の4人に1人が高齢者という時期がくると予測されます。市制施行以来、おおむね一貫して人口増加を続けてきた小平市も、新たに迎えた令和の時代を境に、人口減少や高齢化などの変化を経験していくこととなります。しかしながら、こうした変化に対しても、これまで市民の皆様と築き上げてまいりました「参加」と「協働」、そして「市民自治」をさらに推進し、誰もが地域の中で役割や生きがいをもち、担い手や支え手となって、地域の課題解決に取り組むまちづくりにつなげてまいりたいと考えております。委員の皆様方には、まちづくりの指針となります基本構想につきまして、忌憚のないご意見、ご提案をいただければと思っております。</p> <p>市のさまざまな計画策定につきましては、今まで以上に市民の皆様方の声を伺い、反映させていくことが大変重要と考えてございますので、さまざまな角度からご審議をいただき、市民と行政がともに、これからのまちづくりを進めていくための基本構想ができればと思っております。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
3 委員自己紹介	
4 会長、副会長の互選	
事務局	小平市長長期総合計画基本構想審議会条例第5条の規定で、会長・副会長については互選によると決められている。
委員	事務局一任でどうか。
委員	(異議なし)

事務局	事務局案として、会長を高橋委員に、副会長を栗山委員にお願いしたいと考えている。
委員	(異議なし)
5 諮問	
市長	小平市長期総合計画基本構想審議会会長様。小平市小林正則。 (仮称) 小平市第四次長期総合計画基本構想について(諮問)。 市民と行政が共に、将来のあるべき都市像を共有して進んでいくため、(仮称) 小平市第四次長期総合計画基本構想を策定するにあたり、小平市長期総合計画基本構想審議会条例(昭和59年条例第15号)第2条の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。
6 審議会の運営について	
事務局	資料2、3、4に沿って説明。
委員	(質疑なし)
会長	委員の皆様にご確認いただいた。審議会は、小平市長期総合計画基本構想審議会条例、小平市長期総合計画基本構想審議会の会議の公開の規則、小平市長期総合計画基本構想審議会の運営に関する取り決めに沿って進める。
7 (仮称) 小平市第四次長期総合計画策定について	
事務局	資料5、6、7、8、9に沿って説明。
委員	(質疑なし)
会長	審議会のスケジュールについて、今年度は日時及び場所が決定している。来年度のスケジュールについても、事務局と調整のうえ、できるだけ早く委員の皆様にお示ししたい。
8 委員による意見交換	
会長	本日は第1回目である。長期総合計画に対する考えや意見など、委員の皆様から自由に出していただきたい。
委員	市民活動支援センターの指定管理を行っている。小平市の市民活動の活性化を主な目的として事業を展開している。こうした立場から、長期総合計画では市民の役割や協働といった提案ができればと考えている。
委員	体育協会として体育全般に関して関わっていくが、提案内容はスポーツが中心になると考えている。
委員	平成28年に小平市と産業活性化に関する連携協定を締結し、創業支援事業等を中心に一緒に活動させていただいている。人口減少・少子高齢化社会に対しては地域の企業が力を発揮できるような産業経済といった視点や、施設建築物等の更新に対しては民間の活力を上手く活かした行政財産の活用といった視点から議論させていただければと考えている。
委員	15年前に緑が豊かで空気がきれいだとということで小平市に移り住んできた。緑だけではなく、いかに魅力のあるまちになるか。若い方が一旦は都会に出ても、また小平に戻ってこようと思えるまちになるには、ということを考えていきたい。

委員	市内には 137 名の民生委員、児童委員がおり、1 人が平均で 600 世帯を担当している。平成 29 年度から新たな事業として、75 歳以上の高齢者の全戸訪問を実施している。平成 29 年度は 75 歳以上の方が市内に 2 万 2 千人いる中、1 人暮らしの高齢者、高齢者のみ世帯といったデータが取れた。高齢者人口が増えていく中で、こうした実情からも話ができればと考えている。
委員	現在進行している再開発事業等も含めて、都市開発事業は商工業の他にも魅力のあるまちづくりに関係してくる。第四次長期総合計画では都市開発について謳っていても良いのでは。まちの魅力が増えると良い。公共施設マネジメント関係では、福祉会館前に新建物の建設が予定されている。機能などは関係機関と十分に相談して進めてほしい。たかの街道沿いの鎌倉公園整備事業は 2.9 ヘクタールの広大な面積である。広い土地なので、どんな機能を持たせるのか関心がある。小平がもう少し有名になればと思っている。
委員	小平の未来という視点から、若者や生産年齢人口が住みよいまちづくりができると良いと考える。小金井市のきたまちセンターや武蔵野市の武蔵野プレイスは若者世代をターゲットにした図書館があり、生涯学習や市民の交流施設としても幅広い年代に利用されている。全体的に、生涯学習といった観点から魅力的な場所ができればと考える。
委員	普段日中は都心へ仕事に行き、夜帰ってきて寝てという生活をしてきたが、最近になり、小平は魅力的なまちだなということがわかってきて、この 2 年半くらい、小平の魅力を市内外の人達に伝える活動を続けてきた。小平には既に魅力があると感じているが、それを上手く伝えることや、デザインがされていないことが多々ある。また、個人が何かをやりたいという思いを応援することができるまちに向かう提案ができればと考えている。小さな公園や玉川上水、狭山・境緑道など、人が流れている場所で滞留できるようなしかけがあると、交流が生まれるといった効果が出てくるのでは。東京街道沿いには農産物直売所が多数あるので、それを楽しむことができるスペースを作るとか、そのような場所がまちに点在してくると、まち全体で、人がもっと地域に足を運ぶようになり、魅力の周知や小さな経済が回ることにつながる。
委員	結婚を機に小平に来て 20 年。子育てサークルを主催する中、産後うつや悩みを持つお母様方と知り合う機会があり、2013 年から産後支援団体を立ち上げて活動している。出産後は孤立しがちなので、そこを地域とつなげていきたいと思っている。人口減少・少子高齢化社会では、ますます子育て支援が必要となってくる。仕事では、他市で相談員として勤務し、DV やハラスメント、発達障害やセクシャルマイノリティなどの相談をお受けしている。生きづらさを感じている人たちも性別に関わらず、誰もが尊重され、その人らしい生活を送って活躍できる、そんな小平市をめざしていきたい。

委員	<p>小平市に住み始めて 35 年くらい。生活圏は国分寺駅が中心で、40 年ほど都心で仕事をしてきた。都心の一角では、日本人を見つけるのが大変なくらい外国の方で賑っている状況。都心で仕事をして小平に戻ってくると、緑や畑もありほっとする。長期総合計画策定のための市民ワークショップにも当選して参加したが、小平に住んでいる方はとても親切なのだということが印象に残っている。長期の構想を作り上げていく、非常に重要な時期だと考えている。活性化と保全との両方の観点からのまちづくりについて、平成 29 年に策定された都市計画マスタープランとも整合性を取っていきながら考えていくことが重要。</p>
委員	<p>小平に住んで 41 年。緑が多いこと、大学が多いこと、職場が近いこと、の理由で小平を選んだが、選んで良かったと思っている。会社を退職してからボランティア活動を行っている。被災地支援、地域の居場所づくり、障がいのある人もない人も共に楽しむイベントなどを行ってきた。子育て世代や働き盛りの世代が少しやる気を出して地域に関わっていけるようなまちづくり、世代間交流ができるようなまちづくりができると良いと考えている。学生さんがくると、高齢者も子どもも喜ぶ。近年は、市民と市の職員が関わる機会も増えているように感じるが、今後は益々、行政と市民が協働してまちづくりをしていくことが重要と考える。行政がやりにくいことは、先取りで市民がやっていくようなことも考えられればと思う。</p>
委員	<p>小平で生まれ育って結婚を機に外に出たが、また小平に戻ってきた。20 年ほど子育て関連の NPO 法人に所属している。20 年前と現在では、子育てに関する悩みが変わってきていると感じる。子育てや障がいについて不安なく安心して暮らせるまちづくりに関心がある。核家族化も進んでいる中で、子育てしている方の内面的なサポート体制もあると良い。住んでいる地域はどんどん子どもが増えているが、一方で商店街の中には閉まっているお店がある。せっかく若い世代が入ってくるので、一時的で終わらない魅力的なまちづくりの継続が必要。空き家の増加や外国の方の活躍の場などについても考えていきたい。</p>
委員	<p>小平に住んで 10 年。交通面や買い物など、大変暮らしやすい。現行計画の実施率はどうか。そういったことも材料に、第四次の計画を考えていきたい。</p>
委員	<p>家は江戸時代から小平にある。最初の基本構想から土地利用を含めまちづくりの歴史があるが、一番変わったという点は観光。今まで観光というと、小平から出て行くということだったが、農産物など地域資源を PR することで小平の中で観光ができるようになってきた。同時に学校給食でも地場野菜を使うようになった。だんだんと住民と農業者の距離感が狭まってきたのかなと思う。第一次から第三次の長期総合計画の中でも農家は生き残ってきて、市民にも認知されている。「まち」ということを考えるとき、子ども、働く世代、高齢者、という社会が一体となった形のまちづくりができると、どの世代にとっても温かい市になるのではないかと。子どもの声が聞こえなくなるとは、地域の活気がなくなってしまう。人が長生きして、最終的に何を求めるかを考えると、やはり緑や自然なのではないか。緑や自然を残し、学生も含め家族で観光ができるまちづくりができるとよい。</p>

委員	<p>10年前に小平に開業した。地縁はなかったが、小平市は緑も多く良いところと思い決めた経緯がある。開業して10年たつと、患者さんも年をとり、最近来なくなった方や、受付で何回も同じ事を聞く方が増えてくる。そうした現状について、現在も地域包括支援センターとは情報共有しているが、今後は益々、地域のサポート体制が必要と考えている。認知症高齢者がこれからますます増えてくると予測される中、少子化によりマンパワーが不足する。認知症の前段階において予防していくサポート等も、直近の問題として考える必要がある。少子化で働き手が減る中、介護に人手がとられると、他が手薄になり、国力低下や税収減にもつながる。若い世代が結婚しない原因は様々であるが、高齢化、少子化を踏まえた計画作りが必要。</p>
委員	<p>小平に来る前は人口減少や高齢化が東京とは比較できないスピードで進行するようなところだった。赴任で小平にやってきて12年。観光まちづくり振興プランの策定にも関わった。プチ田舎というキーワードもその計画策定の議論の中から生まれてきたもの。観光まちづくりを進める組織が必要ということで観光まちづくり協会が誕生し、今年一般社団法人化を行った。その際、既存の団体も統合して、小平のPRを一体となって行っていくようになったところ。観光としてのまちづくりに様々な人が関わり発信をする、地域のブランドをデザインし発信していくことが重要と考える。これからの長期総合計画の中では、SDGsを踏まえた考え方も必要になるかと思うが、観光や交流人口、関係人口といった側面から意見を発信していきたい。</p>
委員	<p>魅力の発信というお話があった。小川駅再開発事業の中で公共施設の再配置が検討されているが、様々な機能のコラボによって相乗効果を生み出すような形で発信できればと考える。市民活動に参加をする人を増やすため、一昨年から「こいだいら人財の森」を始めた。市民活動に対する期待もある中で、必ずしも市の施策に沿ったものばかりではなく、今はないが必要だという提案がどんどん出てくるような活発なまちになると良いと考えている。今後、今ある仕事の大部分をAIが担うような時代を迎えるにあたり、今の子どもたちの読解力を向上させる教育についても何かやっていると良いのではと考えている。</p>
委員	<p>スポーツは体力の向上、健康増進、人格の形成だけではなく、明るく豊かで活力に満ち溢れた社会の形成に必要不可欠。様々に関連してくるので、提案していきたい。</p>
会長	<p>本学では、小平市のみならず都内及び全国の自治体と包括的連携協定を締結して、学生が学外活動を行っている。小平市を外から見て、という視点からも計画に提言していきたい。私自身については、大学のウェブサイトの「学長室より」というコーナーでも活動を紹介しているので、そちらもご参照いただければと思う。最後に、何か言い残したことなどあればご発言を。</p>
委員	<p>社会貢献、地域連携を視点におく企業も増えている中、企業の意見を取り入れていくことも必要では。私の知る事例では、大学と企業がコラボして、店舗で販売するものの約3割を地元で採れた食材や生産されたものとする事業計画を掲げている事例などもある。</p>

委員	これまでも、市の計画等に色々と参画してきた。上位計画の下に様々な個別計画があり、上位計画に沿って進めている。第四次の長期総合計画では過去と整合性を持ちながら、未来に繋がるようなことを一つでも実現できるような審議をしたい。
会長	様々に意見をいただいた。事務局から何かあれば。
事務局	それぞれの経験、知識など、豊富にお持ちの方にご参加いただいている。事務局としても情報、考えなどをどんどん出していく。計画期間は12年間ではあるが、50年先くらいを見据えながら、その中の12年間をどうするのかという話ができればと考えている。
会長	これで、第1回小平市長期総合計画基本構想審議会を終了する。
閉会	